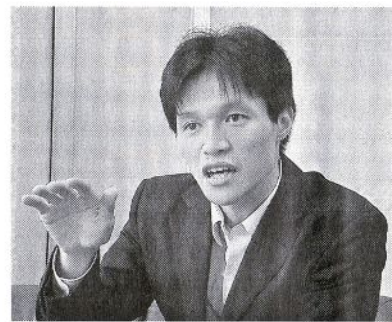


2007年11月21日 株式新聞 (7面)

## ガイアックス

### 上田 祐司代表執行役社長 CEOに聞く



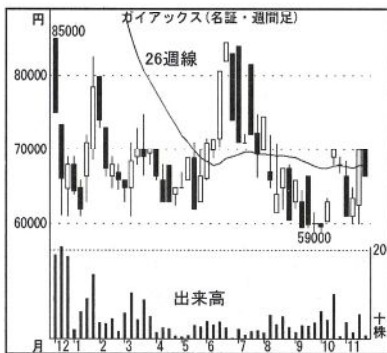
コミュニティーサイトの企画、開発・運営を行うガイアックス(3775・セントレックス)は主力のコミュニティー事業の拡大、さらには、これまで足を引っ張ってきたオンラインゲーム事業からの撤退により収益構造が大幅に改善。今12月期(連結=前期(決算期を5月から変更)中間数字を上方修正、通期での黒字転換が現実味を帯びてきた。そこで上田祐司代表執行役社長CEOに現況と今後の見通しを聞いてみた。

——中間決算を上方修正されたが、その背景と現状について。

上田社長 当社の属するIT(情報技術)業界においてはブログ、SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)などの利用が伸びる中、競合他社の参入、低価格ソリューションパッケージの台頭により激しい競争状態にある。そうした環境下で当社の得意とする法人向けコミュニティー事業の強化、低価格パッケージソリューションに注力したことが功を奏し始めていると思う。加えて不採算事業のオンラインゲーム事業からの撤退も大きい。

——今期から販売を開始した企業の内定者フォローのSNS「フレッシュヤーズ」が順調のようだが。

上田社長 既に納入社数は60社を突破した。この10月にはインターンシップ参加者向けの新サービスとしてSNS「フレッシュヤーズ」をローンチ



### 法人向けSNS好調

——今期の通期見通しは。

上田社長 当面は採算性の良いコミュニティー事業に特化。現在はBtoB中心だが、先々には対個人のBtoCにもトライしたいと思っている。

上田社長 通期としては売上高25億円、経常利益、純利益とも1000万~1億1000万円の見通しは変えていない。売上高、経常利益については問題なくクリアできると思う。ただ最終損益で当社の出資先である台湾法人が他社との企業統合に進むため、持ち株の評価変更という不透明要因がある。

——株主還元策について。

上田社長 配当についてはできる限り早く実現したいと思っている。大変、申し訳ないが、しばらくは収益基盤確立のため内部留保に努めている。